

筑波大生から、未来の筑波大生へ。

# なる。



「君は、何になる？」

なんとなくでつながってきた、今。

私は何になるの、って

大人になったら教えてくれるでしょう？って、

そんな淡い期待に、甘い私。



好きだけじゃ、「ダメ？」が  
好きだけじゃ、「遠い！」になった。



「好き」がカタチになる。  
「好き」がもっと近くなる。

そう私に教えてくれた  
私の居場所。



# なる。

筑波大生から、  
未来の筑波大生のために。

## CONTENTS

- 01 なる。プロローグ
- 08 column#01 筑波大学が気になる。
- 10 何になるのかな。
- 21 column#02 どんな大学生になるのかな。
- 22 筑波大学の住人になる。
- 30 気になる！筑波大生のキャンパスライフ
- 44 column#03 筑波大学で世界ともっと近くなる。
- 46 大人になる。ということ
- 52 「なる。」をもっと好きになる。
- 55 なる。エピローグ

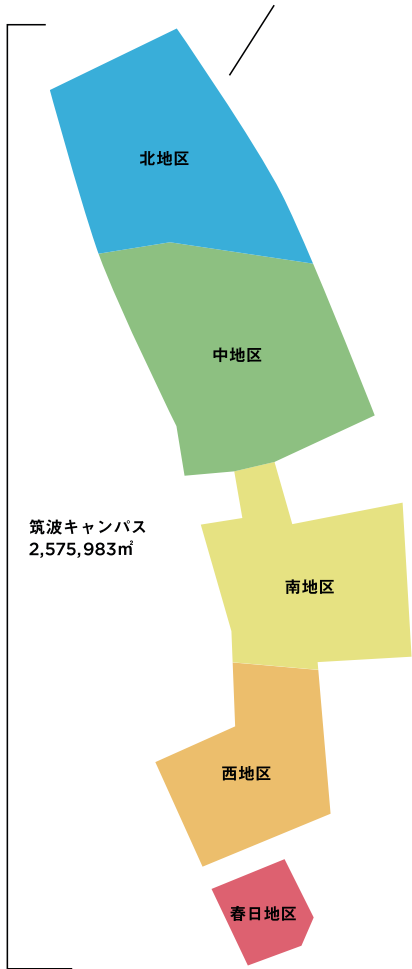
# 筑波大学が 気になる。

数字から筑波大学を見て、  
リアルキャンパスライフを  
想像してみよう！

〒305-8577  
茨城県つくば市天王台1-1-1

## 東京ドーム約55個分のキャンパス

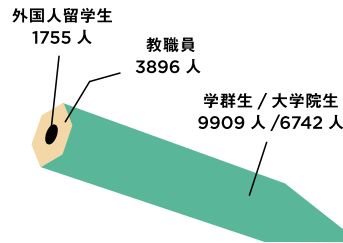
筑波キャンパスの敷地面積は2,575,983㎡。なんと、東京ドーム約55個分に相当する。単一キャンパスの広さでは九州大学・伊都キャンパスに次ぐ、全国で2番目に広い大学なのだ！そのため、移動方法は主に自転車。特に教室移動の多い1年生にとって欠かせないアイテムになっており、春頃のキャンパスは自転車で溢れかえっている。



- 人文・文化学群
- 社会・国際学群
- 人間学群
- 生命環境学群
- 理工学群
- 情報学群
- 医学群
- 体育専門学群
- 芸術専門学群

## 9学群23学類

大学で専攻できる分野は多種多様。学群の垣根を超えて授業がとれる。23の学類の先にはさらに細分化されたコースなども存在する。各専攻の詳細はwebページで！  
<http://www.tsukuba.ac.jp/organization/colleges>



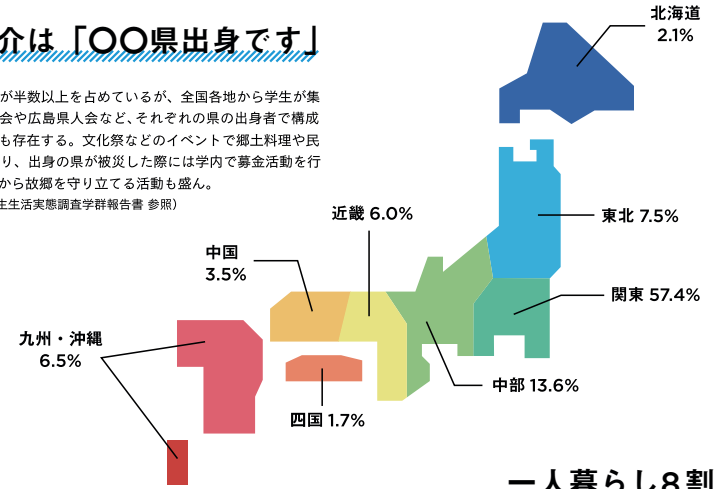
## 2万人以上が通う

筑波大学の学群生・大学院生数は1万5000人を超え、教職員は約4000人。外国人留学生などを加えると、それを更に上回る数字が叩き出される。まさにマンモス大学と言えるだろう。専攻できる分野も広く、各地から集まった学生によるサークルなどのコミュニティも数多く存在し、さまざまな交流が可能である。

(平成28年度 学校基本調査 参照)

## 自己紹介は「〇〇県出身です」

関東圏の出身者が半数以上を占めているが、全国各地から学生が集まる。沖縄県人会や広島県人会など、それぞれの県出身者で構成されたグループも存在する。文化祭などのイベントで郷土料理や民謡を企画したり、出身の県が被災した際には学内で募金活動を行うなど、つくばから故郷を守り立てる活動も盛ん。  
(平成24年度 学生生活実態調査学群報告書 参照)



## 一人暮らし8割以上

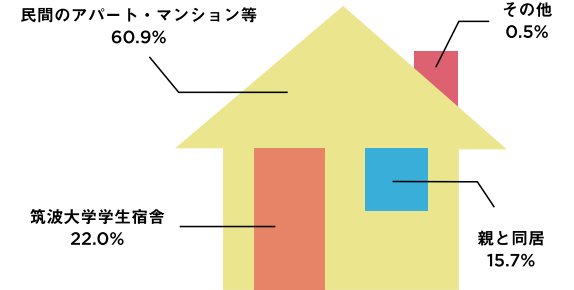
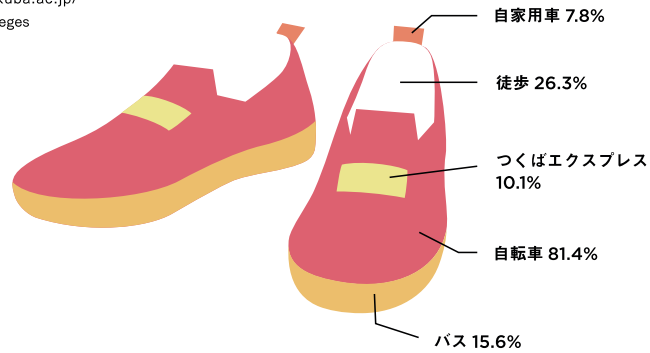
大学の敷地内にある学生宿舎は、主に1年生が優先的に入居できるシステムになっており、一人暮らしに慣れた2年生以上になるとアパートに移る人が多い。また賃料の安さや学生ならではの体験として、ルームシェアをしている学生も少なくない。  
(無効・無回答は含まれません)

(平成24年度 学生生活実態調査学群報告書 参照)

## 自転車LOVE 84%♡

一人暮らしをしている学生が多いため、電車や自家用車での通学は少なく、自転車の通学者が84.1%と多いのが特徴。そして徒歩通学者が全体の26.3%を占めているのは、他の大学には見られない特徴ではないだろうか。  
(複数回答可・雨天時は含まれません)

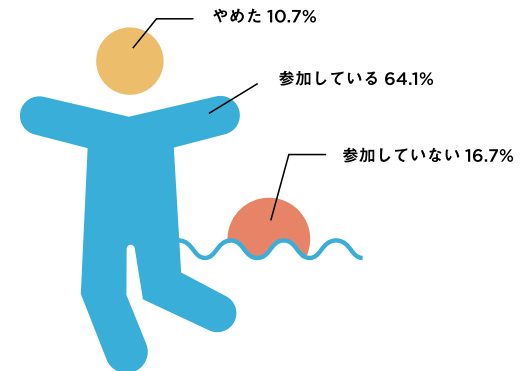
(平成24年度 学生生活実態調査学群報告書 参照)



## サークルで交友は広がる

部活動に所属している体育専門学群や、課外学習の多い芸術専門学群の学生はサークルへの参加率は低い。しかし一人で2つ以上の活動に参加する学生もいるほど、サークル活動が盛んな筑波大学。サークルに参加したことがある割合は全体の74.8%と高い。  
(無効・無回答は含まれません)

(平成24年度 学生生活実態調査学群報告書 参照)



『大学生になりたい』

そうじゃなくて、その先の何かになりたいから大学生になる。

9つの学群とその中の23の学類。

多くの人の人生の通り道になるこの筑波大学で

学生たちはどんなビジョンを持って、その道を選んだのだろうか。

何に  
なるう  
かな。



ダンスの社会的意義について勉強したい。

## 人文・文化学群 比較文化学類



矢野 千帆  
YANO Chiho (学群 4年)

### Q1. 入学前と今、興味があること

昔からダンスをしていたので、ダンス・舞踊に興味がありました。ダンスや舞踊は貴族のものから民衆のものになり、そして社会的にも重要な位置を占めてきました。そのようなダンスや舞踊の社会的意味とは何なのかという部分に興味がありました。実際入学してからは、芸術的側面からダンスを扱うことはあっても社会的側面から扱うことはありませんでした。しかし文化人類学や民俗学を学ぶ中で、人々の宗教やコミュニティの行動の中にあるダンスについて研究してみたいと思うようになりました。民俗学で言えば宗教儀礼で行われる祈りなどが例です。今はそういった人々の生活の中に踊りが入り込んでいるところに面白さを感じていて、ダンスがどのように活かされているかについて興味があります。

### Q 2. 学群の特徴

比較文化学類は領域・コースが多く、先生(思想系・宗教系)は個性的です。研究室が決められていないので、卒業論文作成の時は主査として指導していただく先生と副査の先生を決めて自分から依頼します。一応ゼミと呼ばれるものはありますが、皆テーマが違うので、自主的にそれぞれが動きます。

### Q 3. 領域やコースを選んだ理由

比較文化学類は6領域16コースと選択肢が多いのが特徴です。文化としてのダンスが学びたかったので、現在は「フィールド文化領域」の「文化人類学コース」で学んでいます。芸術的側面、文化的側面のどちらからアプローチするか悩みましたが、授業を受けていく中で文化的アプローチが面白そうだと感じました。

### Q 4. 楽しかった授業

2泊3日で岐阜県に行く民俗学実習です。その土地に住んでいるお年寄りの方を3人お呼びして、土地ならではの独特の生活や暮らし、結婚様式などについてインタビューをする授業でした。インタビューの手法や楽しさを学べただけでなく、実際にお話を聞くと授業で学んだこととは違うところもあって、卒論にも活かされました。文献だけでなく実際に足を運んで聞いたりしなければわからないのが文化なのだと感じ、フィールドワークの大切さも学べました。

### 高校生へメッセージ

5教科などの基礎的な勉強をしっかりした方が良いです。大学では高校のような基礎的な勉強から、研究・応用に移ります。今できる環境があるうちに基礎的な勉強を固めることが大切です。就活ではSPIというテストも行うので、必要な力になると思います。比文について言うと、分野が広いので1年生から自由に科目を選び取ることができます。でも逆を言えば自分が何をしたいのかわからなくなる可能性もあるということです。だから自分が何に興味を持っているのか、明確にすることがすごく大切になってきます。

### 高校生へメッセージ

高校の社会科目の中でも、特に世界史が大切です。数学は使わない手段も選べますが、歴史は必ず大学でも使います！大学は人も講義も、選択の機会が多く、選択の場も広い。だから1つの場が嫌になったり、悩んだりしたら、違う場に移ってみたいと思います。「ずっと海外生活で、大学から日本です」とか、「三浪してます」(国際学部は私立も含め少ないため浪人して遠方から来る人も多い)とか、同期にいるんな人がいると思うので、楽しみにしていて下さい！

海外と日本の「コミュニケーション」に興味。

## 社会・国際学群 国際総合学類



大滝 遼  
OTAKI Haruka (学群 2年)

### Q1. 入学前と今、興味があること

中学時代の先輩が筑波大学の国際学類(当時)で観光に関する研究や留学を考えていて、そこから興味が湧きました。もともと観光や旅が好きで、仕事で自分が海外を飛び回れたらカッコいいなと。今は観光の仕組みを学んだりする過程で、ツアーを組み立てたり、案内をすることやおもてなしにも興味をもつようになりました。また、コミュニケーションの方法や行う場所にも関心があるので、コミュニティデザインについても学んでいます。

### Q 2. 領域やコースを選んだ理由

国際総合学類は2年次から「国際関係学(数学、統計的)」と「国際開発学(フィールドワーク)」の2つに分かれるのですが、自分は「国際開発」を選択しました。すでにあるものに参加するというよりは、新しいものを作りたいという気持ちがあったからです。今は良いコミュニティとはどういうものかについて研究していて、自分の好きなそれぞれの空間が色の三原色のようにすべて重なり合う場所が、自分にとっての理想の空間になるのではないかと考えています。そういった空間は日本に限らず、海外でも見つけることができると気づいてからは、海外に一人旅を試みたりもしました。国際総合学類は日本も海外も隔てがなく情報交換ができるのが魅力だと思います。

### Q 3. 楽しかった授業

裁判員制度を体感する授業。実際に裁判員に指名された場合どうすれば良いか?ロールプレイング形式の授業でした。意見を述べると、それに対して社会学類の卒業生の弁護士が「そういう場合に弁護士はこう判断するよ」などと意見をくれます。最後に教員が警察や弁護士、学生が裁判員役で模擬法廷を実施します。根拠となる知識や理解を深め、自分なりの意見を述べられるようになります。他の学群の学生も多く参加していて、意見の述べ方から学群の色を感じたのも面白かったです。

### Q 4. 将来やりたいこと

まだはっきりとは決まっていませんが、コミュニティデザインをやりたいと思っています。具体的に言えば、自分が卒業する時はちょうど東京オリンピックの1年前の年です。その際に外国人の宿泊施設や空間のデザインに関われたらと思います。国籍や人種が全然違う人たちが、同じ部屋で同じソファに並んで1つの画面、オリンピックに熱狂してたら面白いなと。



## 高校生へメッセージ

障害科学類を受験する人の多くは、数ある障害の中で1つにしかに興味がなかったりします。例えば身内に障害を持つ人がいれば、その障害に関することにしか興味が無い。そうではなくて、もっと幅広く見てほしいと思います。正直、興味が無い人にとって授業は退屈なものかも知れません。だからこそ幅広く関心をもって、面白さを見出してほしいです。もし人間学群の教育学類、心理学類の分野に興味があるなら、1年生のうちから教育・心理の教授に個人的にアポイントをとって、ゼミなどに参加するといったと思います。人間学群は例え障害科学類であっても、教育学類や心理学類の研究室に入れたりするので。

写真提供 © 齋藤さたむ

教育的側面から障害を持つ人と向き合いたい。

## 人間学群 障害科学類



森本 芙生  
MORIMOTO Fumi (学群3年)

### Q1. 入学前と今、興味があること

障害をもつ家族がいたことがきっかけで、世の中の多くの障害で苦しむ方々に対して、医学的側面(診断、生理学的問題、原因究明)から何ができるかということに関心がありました。障害科学類の教員は医学部出身者が多く、そうした私の興味と重なりました。しかし、今は医学的側面よりも教育的側面からの障害者支援に興味に移り変わっています。ひと括りに障害といっても、一人ひとり障害の度合いも種類も異なります。それぞれの得意不得意にあわせ、彼らが世の中に適応していくためにはどのようなサポートができるかを考えていきたいです。

### Q2. 他の大学との違い

学群全てのキャンパスが1つなので、いろいろな分野の人と話せるし、講義も受講できます。障害科学類にはさまざまな専門性をもった先生方がいて、障害という分野を専門的かつ、これほど大きく扱っている大学は他にありません。5つの教育領域全てを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能で、4年間の在学中に全ての教育領域の免許が取得できる数少ない大学です。

### Q3. 領域やコースを選んだ理由

障害科学類には、障害科学、特別支援教育学、社会福祉学の3つの履修モデルがあり、それに合わせて資格を取得することができます。しかし、私自身は資格取得は目的としておらず、1年の時から一般企業就職を考えていたので、公務員や教師になりたいという気持ちはありませんでした。教員などの資格取得のための授業は比重が重いので、やはりやりたい気持ちが強くなければ続かないと思います。実際に途中でやめる学生も多くいます。とりたてて授業を自由にとり、学びたい分野について考えを深めたいと思っています。

### Q4. 将来やりたいこと

学んできた専門的なことを活かしたいです。障害者雇用促進・障害児教育などを行う企業への就職を目指しています。入学時は、医療的側面からの障害者支援に興味があり、医学の道を志していました。しかし障害科学類で学び、教育的側面からの障害者支援を知って、興味が医学分野にとどまらなくなりました。障害科学類は目的や興味・関心をもって入学してきた人が多いので、基本的に障害に全く関係のない分野に就職する人はほとんどいないと思います。

## 高校生へメッセージ

振り返れば、昔の自分は今よりずっと受け身でした。自分で考えるクセがありませんでした。高校生には、自分で考えるという習慣を身につけてほしいです。これは勉強・就職・サークルすべてに応用が効くと思います。自分がやりたいことが分からなくなる時がくるかもしれませんが、そういった場合でも軌道修正できます。今は大学に合格することに集中してしまおうと思いますが、その先の将来のことについて考えるクセをつけてほしいと思います。

さまざまな興味を都市へのアプローチへ。

## 理工学群 社会工学類 (2015年度卒)



湊 信乃介  
MINATO Shimnosuke (博士前期課程2年)  
システム情報工学研究科社会工学専攻

### Q1. 入学前と今、興味があること

元々はおもちゃのLEGOが好きでした。自分で考えて、組み立てることが好きだったんです。そこから建築という分野に興味を湧きました。でも自分は建物そのものではなく、その建物ができたことで周囲がどう変わるか、どのような影響をもたらすかという都市計画により強い興味があることに気がきました。さらに経済、経営にも興味があり、社会工学類はそのすべてを網羅していました。今も都市への興味は変わりませんが、都市は文化の集まりでもあるので、比較化学類のように文化同士を比較することにも興味を持っています。旅行で美術館を巡ったりするうちに芸術の知識を深めたくて、芸術専門学群開設の世界遺産の授業や建築系の授業もとりました。

### Q2. 学群の特徴

学類でそれぞれ独立している感じです。理工学群全体ではあまり関わりはありません。工学システム学類開設の授業をとったり、国際総合学類の人と一部の授業がかぶってたりということはありますが。社会工学類自体は実習が多いです。5人ほどのグループワークで課題発見から問題解決まで、といった実践授業があるので大体そこで仲良くなります。

### Q3. 後悔していること

1、2年生の時の座学の授業をもっとしっかりしておけばと思います。当時はちゃんとやってたつもりでしたが、自分で本を読んだり、先生に質問したり……もっと積極的に動けばよかった。あと、行動範囲が学内に集中していたことも心残りです。サークルでは学外にも出ましたが、学びは学内に集中していました。外に出て人の話を聞いて、それが社会でどう活かせるかについて考えるべきでした。留学にも行きたかった。言い訳にもなりますが、サークルも関係して踏ん切りがつかなかったんですね。

### Q4. 将来やりたいこと

就職先は不動産デベロッパーに内定が決まっています。不動産として建物を建てる仕事です。顧客のニーズや会社の不動産の特徴について知ることのできる営業職を希望しています。また営業はビジネスの基本だと考えていて、大学では学んでいなかった基礎を最初に学んでおきたいという気持ちがありました。そして本当に自分がやりたい企画に役立てたいと考えています。

新しい技術から生まれる新しい面白さ。

## 情報学群 情報メディア創成学類



鈴木 健太  
SUZUKI Kenta (学群2年)

### Q1. 入学前と今、興味があること

入学前は文化がものや技術に影響を与え、また技術によって文化が変えられていくということに興味があり、初めは都市建築を学びたいと思っていました。しかし現代社会においては、都市よりも情報技術や情報の流れに人は強く影響を受けていると考えようになりました。そこで都市建築からメディアへと志望を変え、入学しました。今興味があることもそこから大きな変化はありません。

### Q2. 領域やコースを選んだ理由

一般的な情報系は情報技術自体を学ぶことに焦点を当てているところが多く、情報メディア創成学類はその技術を使って世の中に何をするかを考えるという点で、大きな差を感じました。技術を生み出すだけでなく、それを用いて何かをすることまで考える学問領域を扱っている大学は少ないと思います。その中でも、筑波大学を選んだ理由は、メディアアーティスト・研究者として活躍されている落合陽一さんの出身学類であったからです。

### Q3. サークル活動やアルバイト

サークル活動はしていません。プログラミング・塾講師(週数回)、工作教室(夏休み)、その他制作(時々受注される)をやっています。勉強との両立は大変ではありません。バイト等で固定されていくスケジュールを埋め、空き時間に学校の課題をやり、それでも時間に余裕があれば、研究や制作をしています。

### Q4. 楽しかった授業

やりたいと思った学問領域で勉強しているので、履修している授業は基本的にすべて楽しいです。その中でも良かったのは、情報メディア特別演習です。自分の好きなテーマを設定して1年間演習をするという授業です。僕は友人とアーティストのパフォーマンズに使われる技術をリサーチして、最終的には無線でパフォーマーが自由に光演出ができるようなデバイスの開発をしました。この授業では、同じ学類でありながら情報技術を使って「何」をするかは一人ひとり全く異なるものに取り組んでいました。それがすごく興味深く、最終発表のプレゼンを聞いていて、大学で学ぶ意義や1人で本を読んで勉強する以上の価値を感じました。

### Q5. 将来やりたいこと

研究者かアーティストかクリエイター。新しい技術を使って、ものをつくる人になりたいです。



### 高校生へメッセージ

自分は1年間浪人をしています。現代時代は偏差値に目を向け、志望校を決めなくちゃ、合格するために成績をあげなくちゃ、そう必死になっているうちに終わってしまいました。しかし浪人の1年で、本当に自分に何がやりたいのかをしっかりと考えるようになりました。大学に入ってからそれは一番重要であったことに気が付きました。もう偏差値も志望校もなく、すべては「やる」か「やらないか」であり、その原動力は自分の気持ちです。「大学」よりも「分野」が先だと思います。偏差値や志望校も大事かもしれませんが、それよりも大事なことがあります。時間をつくって今探してください。先生や親の話だけでなく、できれば自分の足で歩き、自分の目で見て、自分の頭で考えてください。

写真提供 © 齋藤さだむ

恩師に教わった理科の楽しさを伝えたい。

## 生命環境学群 生物学類



牧野 瑛美  
MAKINO Emi (学群3年)

### Q1. 入学前と今、興味があること

入学前から生物そのものに興味がありました。そのきっかけは中学高校一貫校の時の生物の先生です。仕組みを説明するために工作を用いたり、理解を深めるためにさまざまな工夫をする先生でした。筑波大学の生物学類では遠方(下田、菅平などに筑波大学の研究施設がある)での実習があると聞いて、興味をもちました。実験センターも充実していました。現在興味があるのは分子細胞で、顕微鏡を用いた実験です。元々は生態学にも興味があったのですが、1年次で全分野をひと通り勉強するうちに分子細胞へと興味に移っていきました。

### Q2. 学群の特徴

生物学類では英語化を推進しています。英語の授業、グローバル30への参加、英語の論文を読むなど、さまざまなところからうかがい知れます。やはり将来を見据えてのことだと思います。そうでない学群もあるので、研究や学会で発表する際に英語が必須となるのは特徴的だと思います。

### Q3. 領域やコースを選んだ理由

生物に興味があったからです。生物学類と生物資源学類で迷った(地球は地学系なので別)のですが、生物資源学類はバイオテクノロジーや農学系がメインだったので、やりたいことと多少のズレがありました。生物学類は実験が多く、分野は生物系。その違いが決め手となりました。

### Q4. 後悔していること

1年次の必修の概論は今後にも必要になる知識なので、もっとしっかりと勉強していればよかったと思います。あとはレポートの書き方を1年次から学んでいればなど。レポートは1年次から多く課されるので、考察などもしっかりしていれば今役立つはずですが。資料としても役立つし、書き方の技術を身につけることも重要です。今3年次で卒業論文の準備をしているのですが、ちゃんと勉強しておけばここまで苦労しなかったのではないかと思います。

### Q5. 将来やりたいこと

中学の生物の先生になりたい。自分が中・高時代に出会った生物の先生が理由です。私自身、もっと早くから勉強が楽しいということに気付きたかったので、早い段階で理科の楽しさを伝えたいです。



### 高校生へメッセージ

生物とひと括りに言っても、たくさんの分野があります。1年次で全分野を学ぶのですが、それは自分が何を得意として何を苦手かを知る大事な期間になると思います。正直1年次は結構大変ですが3、4年次につながるのでしっかりと勉強した方が良いです。大学は実験施設だったり先生が素晴らしいので、興味があることを深い内容までしっかりと突き詰められる環境だと思います。

写真提供 © 齋藤さだむ